

へいそく そびけえ

■曾於市文化財散歩（四）

「日光神社の由来」



「日光」や「日置」等の地名は太陽順行による
稲作儀礼に関わる古名と思われる。

日光神社は、曾於市財部町日光（旧上谷川内）自治会に所在している。御祭神は、「天照大御神」で、相殿神は、「加茂上下大明神」「豊受毘売命」「天小屋根命」である。主な祭日は、二月二十九日・春祭祈年祭、四月十三日・例大祭、六月十三日・御田植祭、十一月二十五日・秋祭新嘗祭、毎月一日・十三日月次祭等である。

由来については、和銅三年（七一〇年）、京都加茂神社、主鴨頼長が御神体の鏡を守り下つたと伝えられ、昔は有封の社で、日光神宮と呼ばれた郷の総鎮守。古代、財日奉部（たからひまつりべ）が、都城地方を含めた霧島盆地の日奉りを行った地域が財部、その斎場跡に置かれたのが日光神社、従って神社はそれが引き継がれたのではないかと云われている。

蛭牟田家は、京都加茂神社の神主の庶子加茂頼長から出、加茂（鴨でも可）頼長は、京都上下加茂神社及び伊勢大神宮を奉じて日州財部に下向し、財部郷社日光神社を創建したと云われている。蛭牟田家は、先祖頼長から代々日光神社の神主職を勤

めたとある（財部町郷土史）。筆者の名前は、蛭牟田家二十三代祠堂前名左京進、蛭牟田宮内少鴨長治（享保三年四月十六日）からの由来によるものである。

歴史上、日光神社の周辺では庄内の乱（一五九九年）の際、財部城に拠る伊集院方と本府鹿児島の島津方が激しい合戦を繰り広げ、古井原や郷ヶ迫などその遺蹟も多い。

行事として、かつて正祭二月十三日の打植祭に鈎木引が行われ、北俣から男鈎を、南俣から女鈎を切り出し、両鈎を合せかけて多数で競い引いて勝負を争ったとある（『三国名勝図会』に絵入りで紹介されている）。現在では、鹿屋市高隈の中津神社で勇壮な鈎木引を見ることが出来る。

参考文献・財部町郷土史

前代八名字ヲ鴨卜名乗来り為申候事モ證書多有之候、加茂又ハ鴨二字ニテモ一字ニテモ可為同断候、二字ニ書時ハ仮名書ト申迄ニテ候、蛭牟田之儀二名在ニテ候。

（曾於市文化財保護審議会委員

蛭牟田 長治）